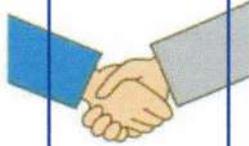


りくつなケアネット金澤 × 加賀脳卒中地域連携協議会 コラボ研修会 報告書

りくつなケアネット金澤

金沢市駅西地区で在宅療養されている方々の支援を目的に、機関や職種の垣根を越え、気軽に頼める顔の見える関係づくりを推進している多職種ネットワーク



加賀脳卒中地域連携協議会

脳卒中を発症された患者を支援するため、急性期から回復期、生活期に至るまで、“加賀パス”を用いた切れ目のない連携、普及を推進しているネットワーク

- 開催日 平成26年3月5日(水) 19:00~21:00
- 開催場所 石川県立中央病院 健康教育館2F 大研修室
- 主催団体 (共催) りくつなケアネット金澤 加賀脳卒中地域連携協議会
- 参加人数 94名(医療・福祉・介護従事者)
- 開催経緯 脳卒中を発症された方が安心して自分の住み慣れた地域で生活するためには、急性期の治療、回復期のリハビリテーションだけでなく、その後の長い生活期において、再発予防やケアの継続性が必要であり、加賀脳卒中地域連携協議会では“加賀パス”を用いたシームレスな連携体制構築に取り組んでいるが、生活期との連携が進んでいない現状がある。そこで、生活期の支援に取り組んでいるりくつなケアネット金澤との研修会を共同企画し、その関係づくりの第一歩となればと考え、開催するに至った。
- 開催目的 コラボ研修を通しての急性期・回復期・生活期の従事者との連携強化と双方の活動の理解をはかるため。

《主な内容》

- (司会) 竹内さん(城北病院)
- 《開会挨拶》 黒瀬先生(金沢ホームケアクリニック)
- 《講義》 池永先生(やわたメディカルセンター)
「こんなに役立つ脳卒中地域連携パス！」
～すべては生活期スタッフのために～

ICFについて池永先生が分かり易く解説！

※ICF生活機能モデル

健康状態/生活状態(心身機能・身体構造、活動・参加)、背景因子(環境・個人)



「グループワーク」(進行) 徳田さん (あんじん)

14グループに分かれて行った。
連携シートに書かれた情報から、生活期スタッフにとって必要な情報が載っているかの確認、ICF分類作業の後、病院側のスタッフと情報を突き合わせ、感想を交流。全グループが発表を行った。



(主な感想)

- ・シートの情報量が多すぎて、どこから見てよいのか分かりにくい。
- ・各シートで重複した情報が多い一方、いざ在宅生活に移行するのに知りたい情報が薄い。(誰が金銭管理しているのか、買い物や食事の用意はどうしているのか等)
- ・ICF分類を今回初めて知り勉強になった。
- ・在宅生活のために知りたい情報は、送り側や受け手側が違うだけでなく、職種によっても違うことが分かり興味深かった。
- ・急性期しか知らなかったもので、退院後の生活の事があまりイメージできなかった。今回勉強になったし、退院後の支援には色んな職種の方が関わっていることを知り、良かった。
- ・研修会は聞く場ではなく、考える場だとつくづく感じた。1回と言わずまた企画してほしい。等



「まとめ」

池永先生 (やわたメディカルセンター)

加賀パス、ICF、如何でしたでしょうか？
パスを用い、生活期につなげていくためには、今回のような「顔の見える関係づくり」が大切であり、それにより地域全体が発展していけば良いと考えます。今回の企画も準備、運営、司会、参加者等、全ての皆さんの協力で成り立っています。今後とも宜しくお願いします。



「講評」

後藤先生
(国立長寿医療研究センター在宅連携医療部)

急性期～回復期、在宅など地域で活動されるそれぞれの活動や思いをお互い知るところから、より良い関係が作られることを学ばせて頂きました。今後、この活動が広がることを期待しています。



「閉会挨拶」

宗本先生 (石川県立中央病院)
今回このような機会を頂きありがとうございました。加賀脳卒中地域連携協議会では脳卒中の患者さんへの切れ目のない連携を築く活動を行っています。今後とも皆さんの協力をお願いいたします。

